

Bon Voyage

ボンヴォヤージュ

2005 夏号 Mai Juin Juillet

この機内誌は
ご自由にお持ち
帰りください



海へと続く道 山へ分け入る道

プロヴァンス
不思議の国の
ブルターニュ

AIR FRANCE

アルルのはね橋

Le Pont Vieux Gogh

ゴッホがこの橋を描いた当時は、所有者の名前を取ってラングワ橋と呼ばれていた。この橋の絵はいくつかのバージョンがあるが、最初の1枚はアルル到着の約1カ月後に描かれている。パリで印象派に影響を受け、明るい色彩に目覚めたゴッホは、アルルの光と自然に喜び、希望に満ちていた。春が過ぎ、夏が来て、陽光が強くなるにつれて、ゴッホの創作はますます旺盛になっていった。

ゴッホは筆を止めた。彼の足取りは弟テオや妹に残した書簡で追うことができる。それによるとゴッホは1888年の2月にアルルに到着。未だ理由は「もっと違う光を、強烈な太陽が見たかった」と、浮世絵から日本に憧れ、明るいアルルを想像の中の日本のように感じたりもしている。最初の絵は春の到来を告げるアーモンドの花だった。それはどこか日本の桜に似ている。その夏はゴッホの画家生命の中でも最も光栄した創作期間だった。ただし、それは10月にゴーギャンを「黄色い家（戦災で焼失）」に呼び寄せるまで。2カ月もたないうちにゴッホが夢見ていた共同生活は破綻を迎え、激しい口論の後、ゴッホは自らの耳を切る。

ゴーギャンは去り、普問から精神の錯乱は険合いを増し、近所の人が入院の囁き書きを聞くまでになる。アルルの病院でも治療を受けていたが、ゴッホは自ら望んでサン・レミの精神病院へと向かう。アルル到着からわずか15カ月後、1889年5月のことだった。



アルルのラングワ橋は1888年5月に描かれた。これは他のバージョンと異なり、ゴッホの到着から10日後に描かれたもの。ゴッホは橋を引いてアルル到着から約1カ月の間に描いた。



夜のカフェテラス

Café Van Gogh

フォーラム広場の「夜のカフェテラス」は1888年の9月に描かれた。100年以上たってもその風景は全く変わっていない。ゴッホは黒を使わず赤と紫と緑で闇を表現した。自分の家の近所の違うカフェの店内を描いた「夜のカフェ」は、赤と緑で不穏な雰囲気を表したかったという。色彩は現実ではなく、心象世界を表現するものだった。

写真はフォーラム広場のカフェ・ヴァン・ゴッホ。11, Place du Forum 13200 Arles ☎04.90.98.44.58 営業時間/2:00-0:00 7月、8月9:00-22:00 年中無休

プロヴァンスに辿る ゴッホの足跡

北の国、オランダで生まれ、パリで絵を描いていたゴッホは、明るい光を求め、希望を抱いて南へとやって来た。それは天才の命の灯火が消える少し前。落胆や病と闘いながら、たくさんの傑作を残し、また北へと去って行った。

エスパス・ヴァン・ゴッホ

Espace Van Gogh

ゴーギャンとの確執で左耳を切ったゴッホは、アルルの市立病院で手当を受ける。耳の傷は回復するが傷心のゴッホは酒びたりとなり、近所の人々が市長に出した嘆願書によって再び病院へと入れられる。この絵を描いたのはその時で、1889年4月。ゴッホを親身に楽したこの病院のレイ医師の肖像画も残っている。この直後にゴッホはアルルを去る。

当時は病院だったが、現在は文化センターになっている。中庭には花壇があり、当時の医師の肖像画も残っている。Rue du Prêtre Wilson 13200 Arles ☎04.90.48.08.06 観覧時間/2:00-17:00 閉館日/月曜



古代墳墓

Alyscamps

ボブラの並木道が長く続く古代墳墓をゴッホは1888年10月にゴーギャンと訪れている。それぞれが描いた絵が残っている。「ボブラ並木の墓墓をただ描いた」というが、木の幹は鮮やかな青で見る人に物語をかもした。感動を分け合う芸術家のコミュニケーションをアルルで夢見たゴッホだが、その呼びかけに応じたのはゴーギャンひとりだけだった。



墳墓は23ヘクタール。

古代アルル博物館

Musée de l'Arles antique

新石器時代から後期ローマ文明期までのアルルの発掘品を収蔵。劇場の壁にあったアウグストゥスの像や4世紀半ばの夫婦の石棺など、約1300点が展示されている。モダンな建築はこの地の青空を模した色に塗られている。



Avenue Jean Monnet
13200 Arles
☎04.90.18.88.88
開館時間/3月~10月
9:00~18:00 11月~
2月10:00~17:00
閉館日/1月1日、5月
1日、11月1日、12月
25日



円形闘技場

Amphithéâtre

90年頃に造られた大闘技場。404年にキリスト教の影響で禁止されるまで、グラディエーターたちがここで闘っていた。アリーナは長径136m、短径が107m。2万人が収容でき、現在も夏から秋にかけて闘牛が行われる。

13200 Arles
☎04.90.96.03.70
開館時間/3月、
4月、10月9:00~
17:30 5月~9月
9:00~18:00 11
月~2月10:00~
16:30 無休



Chemin des Alyscamps 13200 Arles
☎04.90.49.30.87 開館時間/3月、4月、10月9:00
~11:30、14:00~17:30 5月~6月9:00~18:30
11月~2月10:00~11:30、14:30~16:30 無休

古代墳墓

Alyscamps

最初はローマ人の共同墓地、4世紀から7世紀頃までは初期キリスト教徒の墓地だった。並木道の下、両側に当時の石棺がズラリと並んでいる。奥には12世紀建造の聖オノラ教会がある。スペインに至る蓋礼地のひとつとなっていた。

古代劇場

Théâtre antique

紀元前1世紀末、アウグストゥス帝の時代に建造された。客席は33列、1万人を収容した。2本残っている円柱はアフリカとイタリアの石。舞台奥には音響のための壁があった。演劇はローマ人にとって欠かせないので観衆だった。

13200 Arles
☎04.90.96.93.30
開館時間は古代墳墓と同じ。



アルラタン博物館

Musée Arlaten



Rue de la République 13200 Arles ☎04.90.93.58.11
開館時間/4月、5月、9月12:30~12:30、14:00~18:00
(10月~3月は17:00まで) 6月~8月9:30~13:00、14:00
~18:30 閉館日/月曜(7月~9月を除く)

プロヴァンスの詩人、フレデリック・ミストラルがノーベル賞賞金で作った民俗博物館。係員の女性はみな民族衣装着用。プロヴァンスの生活や風習に関わるものは何でも揃っている。お守りを集めたコーナーが面白い。

円形闘技場の近くにある 貴族の館跡のお洒落なホテル オテル・ド・ ランフィテアトル

Hôtel de l'Amphithéâtre

静かな一角にあり、足の履もいい。17世紀の貴族の館の雰囲気を温存しつつ、客室はプロヴァンス・スタイルで明るくまとめている。



5-7, rue Diderot 13200 Arles
☎04.90.96.10.30 ☎04.90.03.98.89
www.hotelrph@wanadoo.fr

プロヴァンス料理を 気軽に楽しみたいのなら ラ・ボエーム

La Bohème

17世紀の館跡にあるレストラン。野菜をたっぷり使ったプロヴァンス料理が自慢。アニスを効かせた魚料理やブイヤベースもおすすりだ。

5, rue Diderot 13200 Arles ☎04.90.18.55.50
営業時間/12:00~14:00、19:30~21:30
定休日/日、
月曜



サン・トロフィム教会

Primatiale & Cloître Saint-Trophime



12世紀から15世紀に現在の形となる。プロヴァンスのロマネスク建築の傑作。ここが巡礼の起点となり、有名なボルタイヌは巡礼者の手で彫られた。その奥にあるロマネスクとゴシックの回廊も必見。聖人トロフィム伝を據いた柱頭の彫刻が素晴らしい。

スハスエ

Rue de la République
13200 Arles
☎04.90.49.33.53
開館時間と閉館日(別冊)
は円形闘技場と同じ。





町中のあるところに突如、
 いくつもあるローマ遺跡、
 左はレジュリアス広場、
 右はレジュリアス広場。
 これは更かれにあっては
 なかったに動かれていた
 ものを残して来た。その
 せいで歴史遺産のアー
 ルスの壁から多くア
 ヴォラム(教会)の建
 物、残存は後に住居
 や商業に改造された
 こと、遺跡は人々の生
 活に利用されていた。

【アルル】 Arles

活気あるローマの面影を 今に伝える

くっきりと青い空、石造りの古い家並み…アルルは典型的な
 プロヴァンスの美しい町。そこには今もローマの気配が
 漂っている。2000年に及ぶ歴史遺産の宝庫。

ローヌ川下流にあるアルルは、
 早くからケルト・リグリア族が住
 んでいたが、紀元前6世紀にマル
 セイユにいたギリシア人の支配下
 となり、紀元前49年、シーザーに
 よってマルセイユが陥落するとロ
 ーマの植民地となった。

この時からアルルの黄金時代は
 始まる。陸上では7つの道が交わ
 る場所であり、ローヌ川と地中海
 の水運の中継地でもあったため、
 商業交易都市として栄えた。中近
 東、アフリカからの産物も扱って
 いた。劇場、競技場、浴場など都
 市の施設が整備され、その美しき
 と賑わいは「ガリアの小ローマ」
 と讃えられた。

4世紀にはこの地方の州都とな
 り、大司教座が置かれ、宗教面にも
 重要な町となった。スペイン遷
 都のこの地方の起点ともなってい
 た。その後、ローヌ川の河口は次
 第に土砂で狭くなり、港湾都市の
 役割をマルセイユに奪われる16世
 紀頃まで、アルルの繁栄は続いた。
 ローマ時代だけでなく、中世の遺
 跡も多く残っている。

またアルルは、闘牛、可憐な民
 族衣装、祭礼、方言など、プロヴ
 アンスの伝統を色濃く残し、また
 その保護に努めていることでも知
 られている。夏の祭りの時期は町
 中が活気づく、プロヴァンスなら
 ではの魅力がほとばしる町だ。

そしてこの地を有名にしたのが、
 南仏特有の明るい陽光、豊かな自
 然に惹かれてやってきたゴッホ。
 15カ月ほどの滞在で2000点近い
 作品と多くの手紙を残している。